

白山手取川ジオパークを未来へ！

魅力発信と価値継承



竹下 勇生(たけした ゆうき)
石川県立鶴来高等学校 2年

白山手取川ジオパークを未来へ！

魅力発信と価値継承

竹下 勇生



活動概要

活動の内容

鶴来高校生による白山手取川ジオパークの活性化と価値継承の取り組みを行った。今年7月から活動を開始し、10月の日本ジオパーク全国大会に向けて様々な活動に取り組んだ。夏休みには地域イベント・おついちマーケットのボランティア参加を通してイベントに来られた延べ4000名の来場者の検温などの補助を行った。10月には「ほうらい祭り」での語り部活動を行った。祭りの来場者の皆さんに鶴来の歴史や文化を伝えた。小中学校での「ジオパーク出前授業」では、ジオパークの魅力をより若い世代に伝えることができた。

活動の特徴(新規性・発展性)

本活動の特徴は「ジオパークの価値を“若者が”発信」することである。各地のジオパークではジオガイドの方をはじめとした価値を語る事ができる方の高齢化が進んでいる。この活動を通して私たちが地域の「魅力」を実際に体験し、ジオパークの価値を実感した。そのうえで小中学校での出前授業や語り部活動に取り組むことで、より「自分の言葉」でジオパークの魅力をより若い世代を中心とした人に伝えることができた。

活動の成果

「高校生が地域を盛り上げる可能性を広げることができたと思う。以前は地域のイベントに高校生と一緒に参加をする姿は見なかったと思う。この活動を通してたくさんの「ありがとう」や「また来年もよろしく！」といった嬉しい言葉を頂いた。この活動をスタートにより地域の魅力を発信する活動を広げていきたい。出前授業や様々なイベントで私たちの活動に触れたより若い世代の人たちが活動の輪を広げてほしい。

課題の設定と意図

様々なジオ活動を行うにあたって自分たちが設定した課題は「若者のジオパーク理解が乏しい」ということである。その課題はジオの必要性、魅力がわかっていないことに起因する。そのため若者達はこのジオを守っていくとする意識が低い状態にある。私が考えるジオの魅力は地元が好きになれる所であると思う。普段、目にする景色や地形、建物などなふりに利用され地域の支えとなっているかを考えること、また歴史の背景を知ること地元の意外な一面や魅力に気づき、それを共に守っていくと地域全体で協力することで元気で活気のある地域になっていくと思う。そうなるためにジオパークを高校生の手で活性化していく取り組みを行い、課題解決を目指した。

課題解決のための仮説と計画

課題に関してなぜ理解されていないかということについて考えたときにジオパークを意識した関わりが少ない、情報を手に入れる手段がわからない、少ない、どのようところに魅力があるかわからないという理由が挙げられる。この理解されないという課題を解決するために、自分たち高校生がジオパークの価値を伝えていくことで、地域住民の考え方、行動に良い影響を与え、持続可能な地域の構築あるいは地域活性化へ繋がっていくのではないかと仮説を設定した。この仮説の実証をするためにはまず「私たち自身がジオの価値を知る」ことが必要である。そのため価値を知る場面に多く参加し、その後価値を伝える場を設け、多くの人たちに発表した。私たちはまず「価値を知る」ためにジオパーク中流域のフィールドワーク、おついちマーケットのボランティア(衣食住をテーマにし、鶴来の魅力を感じてもらいたいと開催した沢山のフード、ドリンク、ファッションなどの出店が立ち並ぶイベントの手伝いを行う活動)、語り部活動(ほうらい祭りという鶴来の祭りを行っている間、横町うらら館という休憩所で鶴来の沢山の歴史を来館された人達へ発表を行う活動)の事前学習を行った。そして「価値発信」の場として、語り部活動、小中学校出前授業、全国大会(県外の高校生との街歩きを通して、白山手取川ジオパークの魅力を伝え、持続可能なジオパークの在り方について、意見交換したり、ジオパークと鶴来高校生の関わりや学びについて、全国のジオ関係者の皆さんに発表したりした。)



活動で工夫できたこと

ジオ活動を行っていく上で「SDGs」の視点を持って活動に取り組んだ。OR合宿で受けた講習の中で経済的な発展を図り、お金を作るということや、地域を良いものとしようとする活動が後からSDGsに繋がってくるという話を聞いた。自分の中で近年様々な企業で重視されているSDGsは元々確立した企業開発、事業の中から繋がりを探して取り込んでいったものであると解釈ができ、とても腑に落ちた。そしてこのSDGsの視点が地域の持続可能性に重要になるのではないかと考え、私たちが行ったジオ活動は「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任使う責任」「15 陸の豊かさを守ろう」というところに繋がっていくことが明らかになった。また、活動の中で聞き手にわかりやすい説明を意識した。例えば自分は語尾まではっきりと「まあ」「一応」などお茶を濁すような言い方を避け、発表の上手な他の同級生を参考に発声し、この活動を通して間の取り方、強弱の付け方、言葉の表現方法など発表能力の向上につながった。



活動で得た学び・気づき

自分たちが何気なく過ごしてきたこの地域は自然的な要素にめぐまれ、多くの歴史的背景が存在し、この地域を盛り上げようと活動奮起する人たちが多くいる場所であることから、これまで地域住民が守ってきたことが誇りでであると学んだ。

私たちが活動してきたおついたちマーケットや語り部活動、ユースセッション等、地域の企業、自治体、学校そして住民が協力を行なっている活動は他の「田舎」と呼ばれている地域ではあまり耳にしたことがない。そのような地域を良いものにして、盛り上げていこうという活動の少ない「田舎」はどんどん寂しいものになっていってしまうのではないかと思う。そのような点から鶴来を俯瞰して見てみると恵まれた環境にあると感じ、自分たち若い世代が担い手として受け継いでいく必要があると考えた。そこでまず自分たちが活動を続けていこうと思い、活動をするにあたって色々な人に白山手取川ジオパークの魅力幅広く知ってもらうための力をつけなくてはならないと思った。今までのジオ活動で得た発表能力(活動で工夫できたこと参照)をこれからのプレゼンに昇華していきより良い発表にしていきたいと思っているが、自分たちには発表の面、知識の面でまだまだ至らない部分がたくさん存在する。その解決のためたくさんのジオを回り、経験を積んでいこうと思う。今まで知識を蓄えるためにたくさんの白山手取川ジオパークを見てきたが、このジオには「ジオの強みを活かす観光の整備」が必要であると思った。ジオ活動を行う中でツアーを利用しない観光客に対してはどうアプローチしていくのだろう、海外からの観光客はどうするのだろうと考えたが、やはりそう言った点で案内看板の数が少ない、道の整備が行き届いていない、国際化が進んでいない等問題が残っていることがわかった。自分たち若い世代の視点からジオについて考えて今後の発展に繋げていこうと考えた。

今後の展望・新たな取組み

今までのジオ活動を総括して、地域の人に自分たちのジオをもっと伝えていきたいと感じた。伝える手段として今まで口頭での発表のみであったが、これからはジオを実際に体験するというアクティビティ要素を取り入れ、魅力を伝えていきたいと思う。アクティビティ要素という点について鶴来には伝統工芸や代々継がれてきたまつりの文化など、これから受け継いでいくべきものがたくさん存在する。しかしこれらのものは地域の一部の人たちの努力で成り立ってきたものであり、今の状態では持続可能性というものは担保されていないため、もっと幅広く、地域をあげて守っていききたいと思った。その第一歩として高校生が伝統を守ってきた地域の方々と一緒に住民を繋ぐ場を提供したい。そこで鶴来の歴史やどんなことを行なっているかを伝え、実際に体験してもらう企画をし、住民や小中学生まで触れられるものにしていきたいと考えている。また修学旅行生に対しても白山手取川ジオパークの魅力を知ってほしいと思っている。白山手取川ジオパークは金沢からも近くアクセスしやすい場所にある。そのためぜひこのジオにきて良さを味わってほしい。そしてその際に私たち地元の高校生がガイドとして魅力を伝えていこうと考えている。この活動を通して楽しんだ修学旅行生にジオパークの魅力を知っていただき、良さを教えてもらい、フィードバックをいただく事で、客観的な視点からより良いジオ活動の改善が見込め、地域にやってくる人が増えて地域がより元気なものになることが期待される。またこれからジオを伝えていくための知識を蓄えるという点で、私たちが見てきた川と峡谷のエリアだけでなく海側のジオのほうも調べてみたい。そして今まで自分たちのジオを主にして見てきたため、他のジオパークと比較し良い所、悪い所を考えより良いものとしていきたい。こうした活動をしていくことで観光客が行きかい、みんな笑顔で地域のことが大好き。元気で活気あふれるジオパークになっていこうと思う。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	個人	ブロック	中部
グループメンバー	氏名①			氏名③	
	氏名②			氏名④	

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立能登青少年交流の家	修了日	2022/7/17	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	羽咋市のフィールドワークで高齢者サロンや介護施設に伺って羽咋市の現状を知り、グループディスカッションで問題点を出し合った後、自分たちでどのような対策ができるかポスターにまとめ、発表を行った。				
実践活動期間	2022/7/21 ~ 2022/11/5				
活動のタイプ	発展的な活動				
協力者		主な協力者		協力内容	
	所属	白山手取川ジオパーク推進協議会		ジオパーク学習の実施や全国大会のコーディネート	
	氏名	白山手取川ジオパーク推進協議会会員の皆さん			
	所属	(一社)白山鶴来Re研究所		おつたちマーケットの企画運営	
	氏名	松村昌英さん			
	所属	NPO法人 加賀白山ようござった		語り部活動勉強会講師&活動場所の提供	
氏名	磯部雄三さん				
協力者総数	30名				

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 21 日

事前:準備・打合せ	10日	本番:メインの活動	10日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	-----	-----------	-----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	2回	語り部活動に向けての学習会、当日の活動を地元紙2社から取材を受けた。
テレビ	取材された	1回	語り部活動に向けての学習会、当日の活動をMROテレビから取材を受けた。
新聞	取材された	1回	ジオ全国大会ユースセッションを地元紙1社から取材を受けた。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
7/31 ~ 8/1	②実践活動本番	おつたちマーケットボランティア	おつたちマーケットへの来場者の皆さんの受付や検温、会場の清掃活動などを行った。
10/8 ~ 10/9	②実践活動本番	横町うらら館	ほうらい祭りに来場した皆さんに祭りの由来や地域の歴史・文化・産業を伝えた。
10/17 ~ 10/19	②実践活動本番	鳥越中学校、朝日小学校、北辰中学校	ジオ学習の成果や活動の様子を発表した。小中学生とのワークショップの進行をした。
10/22 ~ 10/22	②実践活動本番	ジオパーク全国大会 ユースセッション	他県の高校生・大学生らに地元を案内した。ワークショップでは持続可能性を議論した。